



○10月度定例役員会

日 時 10月7日(土) 13:30～16:30
(13:00から封入作業を行います)

場 所 ふるさと歴史館・研修室

どなたでも参加できますので、多くの会員の方の参加をお待ちしております。

○大学関連会議

9月9日(土) 16:30～ 第三回稲門祭実行委員会
出席者 風間・小亀

○10月以降のお誕生会について

お誕生会は昨年10月にスタートし、今年9月(2日・於丸藤)で丸1年になります。誕生月をお知らせいただいている方の約6割に出席いただきました。
継続実施が8月の役員会で決まりましたが、今後は下記の様な形で行いたいと思います。皆様の協力をお願いします。

- ①誕生月をご連絡いただいてない方(過去に実施のご案内葉書が届いていない方)は、担当幹事(當間昭治 電話・FAX 391-6023)までご連絡ください。
- ②ニュースで翌月の該当者のお名前を発表し、開催場所等をお知らせします。
- ③出席される方は担当幹事(上記)迄、開催の1週間前迄に連絡ください。

10月度は下記にて実施します
日時 10月7日(土) 午後5時～7時
会場 割烹「丸藤」栄町2-10-8
久米川駅南口歩1分 395-5646
会費 3,000円(記念品代含む)
ご連絡いただいている方々で10月の該当者は下記の皆様です
上幸雄 木原晴彦 久保栄二 中川俊郎 森田茂夫 森田光夫 町田和夫 渡辺利則

東村山稲門会設立10周年イベント基金！ 謝 謝 謝
目標150万円がもうすぐそこです！！！！
10月まで受け付け中

8月31日現在累計 1,485,000円 (80名+会員外2名)

ご芳名(前回以降受付順 敬称略)

小菅宏(2口)、幸田瑞雄(2口)、芦田均(4口)、當間昭治(4口)、崎山裕子(2口)、
島高明(2口)、奥山康治(2口)、高橋鶴次郎(4口)、中村皓一(2口)、澤田信義(2口)

寄付金(1口 5,000円)のお振り込みは 下記銀行口座へ

みずほ銀行 久米川支店

普通預金 1876557

早稲田大学東村山稲門会

※郵便振替口座へ振り込まれても結構です。(「寄付」と明記してください。)

基金担当

井垣

納涼大会報告

7月29日〔土〕當間昭治邸の庭園で開催された「納涼大会」の詳報です。



高橋文子さんのご主人によるギター演奏



市川彰彦さんのオカリナ演奏



歓談の輪が広がりました



大活躍のご婦人連



西瓜割り…固い西瓜でした



最後はやっぱり…都の西北



(写真提供：赤荻さん)

同好会だより

ヨガ同好会

世話人 大西 幸夫 TEL 395-2817

18年8月の実施状況

2部第2回：8月7日(土)

朝から猛暑の日でしたが、皆様暑い中に出席頂き参加者は大西、小山、高橋(文子)母子、滝川(桜子)、額田、三宅夫人の7名でした。

先ず、恒例の雑談から始まりました、雑談の内容は60年前の終戦時の各人の空襲体験及び教育制度で戦争体験および米国の占領政策を風化させない良い話し合いでした、その後、気功とヨガを時間一杯実施しました。

なお、この日の暑さはスポーツセンター2階の武道室で女性1名が熱中症で倒れる事故があったようです。

◎今後の予定

2部第3回：9月4日(月)、2部第4回：10月2日(月)

何れも、10時～、スポーツセンター小会議室です。



テニス同好会

世話人 當間 昭治 TEL 391-6023



8月の例会は9日(水)運動公園コートで実施予定でしたが、朝からの雨の為残念ながら中止、いい汗をかこうと思っていた皆様、9月に期待しましょう。10月と合わせて予定をご案内します。

記

日時 9月17日(日)午後3時～午後5時
10月14日(土)午前9時～午前11時
場所 9/17は久米川コート3
10/14は運動公園コートC

麻雀同好会

世話人 小野 智 TEL 391-9523
松永 常尚 332-5621

先にお知らせの如く、平成18年第3回(36回)大会を下記要領にて開催致したくご案内申し上げます。

マーじゃん親しむの候、奮ってご参加下さい。

記

日時： 9月16日(土)
集合： 12時15分 時間厳守
開始： 12時30分
場所： マーじゃんM
本町4-12 アメニティパレス B1
TEL 397-5228

会費： 7000円(懇親会費含む)

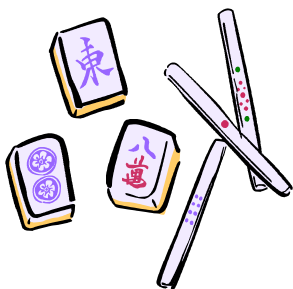
締め切り： 9月10日(日)

雀卓、人数の都合上出来るだけ早めにTELにてご連絡下さい。

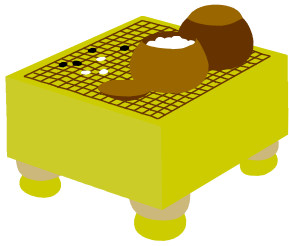
尚締め切り日以降の申し込みにつきましては、ご参加をお断りする場合があります。

何卒ご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

(松永 記)



囲碁同好会

世話人 野村保夫
高鷺近TEL 394-0417
394-2336

○8月大会報告と10月例会のお知らせ●

- 夏の第13回大会は、8月26日(土) 市民センター別館第6会議室で、従来より開始時間を30分早く始めて開催いたしました。
- 前回と同じA,B,C 3リーグ方式の総当たり戦とし、Aリーグでは中川8級、Bリーグでは細渕2級、Cリーグでは佐久間三段が輝くリーグ優勝を果たされました。

参加者は、一色、江藤、久世、小亀、佐久間、鈴木、高鷺、田島、中川、中村、福田、細渕の計13名でした。

●次回例会は10月21日(土)午後1時から、第6会議室で新年度のスタートを切ります。

園芸の会

世話人 三宅良太 TEL 394-5298

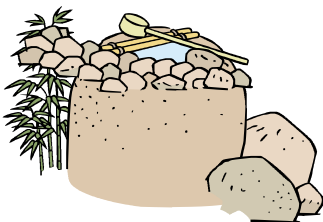


今年第5回目の園芸の会を8月20日(日) 午後スポーツセンタースポーツクラブ室で催しました。今回はさぎ草の品評会で皆さん丹精の鉢を数鉢づつ持参されました。出席者一同順次苦心談等歓談の後、みんなで投票し、上位三鉢に金、銀、銅の表彰を行いました。金賞は當間昭治夫妻(輝かがやき)、銀賞は當摩彰子さん(銀河ぎんが)、そして銅賞は藤澤博恭氏(飛翔ひしょう)ときました。そして兵庫から駆けつけられた

八木勝利氏が2鉢、高部素行氏が1鉢入賞されました。今回も甲斐にお土産を頂きました。當摩彰子さんから箱根湯本温泉の金ごまだんご、八木勝利さんから兵庫丹波黒豆せんべいを頂き、みんなで美味しく頂戴いたしました。なお前回土橋雄次さんからのインド旅行土産の紅茶を皆さんにお分け致しました。出席者は木谷夫妻、高部、土橋、當間夫妻、當摩(彰)、長井、藤澤、八木(勝)三宅夫妻の12名でした。

次回は秋蒔き草花の苗の交換会で日程は10月29日(日)の予定です。

俳句同好会 (稲酔会)

世話人 高杉修 391-8447
井垣和太 04-2924-2934

第27回稲酔会句会は、8月26日(土) 午後1時から恩多ふれあいセンターで行われました。参加者は和夫、瑞雄、風至、慎、北窓、に加え、兵庫県からはるばる参加の竜湖の6名。投句参加は、足を痛めて無念の欠席の稲雀と、回生、の2名でした。

今回の兼題(課題)は「百舌鳥」一切(一切とは、題に関わる事象であれば何でもよいということです)。高く澄み切った空の下、一番高い梢の先で、「キイッー」と高音で鳴くあの鳥です。鴟とも表します。

兼題句、自由題句を含めた40句を、互選合評した後、久しぶりに席題(当日その場で出される課題)「虫」「温め酒」による、2句づつの即詠吟にも挑戦。楽しい句が出そろいました。勿論、夕刻からの「丸藤」での懇談会もいつも通りの賑やかな俳句談義で盛り上がりしました。

次回第28回は10月28日(土)の開催予定です。

(稲雀記)

俳 壇

内藤 慎
ぼつねんと農夫見守る稲田かな
里山に日暮の寺鐘秋近し

丸本 北窓
唐獅子は目ばたきもせず百舌の声
百舌啼くや全山低く静まれる

(前号掲載句訂正)

リモコンとペンを交互の薄暑かな

八木 竜湖

入日さす一直線に百舌鳥の声
万燈に祈りの指を照らさるる

井垣 稻雀

飴色に鵲の早贄枯れにけり
行き惑う勝利の女神甲子園

大西 回生

妻の声掻き消す百舌鳥の高音声
かなかなやひときわ寂し山の夕

風間 和夫

妻の分少し多めに切る西瓜
久し振り先ず一献と盆の月

菊田 一平

髭剃りの喉つき出して休暇明け
銀色の防災頭巾今朝の秋

幸田 瑞雄

夏の萩古き垣根に咲き添えて
百合咲きぬ妻亡き庭の一隅に

高杉 風至

鵲高音草履のならぶ座禅堂
鵲の贄触角のまだ震へをり



8月度「お誕生会」報告

担当幹事 當間昭治

8月度のお誕生会は5日、例会場の久米川駅南口「丸藤」で行われました。該当者9名のうち6名（有賀、高柳忠、南湖、野田、番場、山下）の方々が出席、長井副会長以下14名と合わせて20名、いつもながらの楽しい会となりました。

長井副会長の挨拶、三宅副会長の乾杯に続き6名全員の名前を入れてのハッピーバースデーの合唱、記念品の贈呈の後懇親会に移りました。

恒例のスピーチは5分間。まず登場されたのが80歳の番場さん、東京千住の生まれで府立3中での夜学の思い出と日刊スポーツ勤務30年の思い出、有賀さんは大阪出身で防衛庁関係の仕事に従事し、現在の自衛隊の存在感をアピール、高柳さんは水戸出身の75歳、商家の次男で6大学での広岡さんの活躍ぶりを語ってくれました。

山下さんは母親の影響で英語の教師を目指し、経営にそれが生かされたこと、南湖さんは休日のバードウォッチングのことと、今後の稲門会への積極参加を表明、最後の野田さんはバブル終焉時に就職した神戸での生活を話してくれました。

小亀副会長の締めの後最後は校歌、6名の方々、思い出作りのお役にたてたでしょうか。

第11回(平成17年度)総会 11月25日(土)です

於 東村山市立中央公民館ホール

☆設立10周年記念イベント 13:30～15:00

「ボニージャックスと歌おう」に集いましょう。

会員の同伴者もも予約が必要です。(当日の予約無し入場は受け付けません)

10月にお届けする総会出欠返信はがきに、同伴者()名と記入してください。

☆第11回(平成17年度)総会 15:15～16:00

☆懇親会(久米川菊水宴会ホール) 17:00～19:30

詳細ご案内は10月号のニュース及び総会案内チラシをご覧ください。

私と早稲田大学

滝川 桜子



私は今年で早稲田大学卒業後41年目を迎えた。しかし早稲田大学はまだ私の中に大きく存在し、学生時代の4年間は、懐かしく思い出される。まず入学して前半の私の活動の拠点はサークルだった。どのサークルからも女子というだけで大歓迎の勧誘を受けたが、私は、部室の前で説明をしてくれた3年生の男性先輩に一目ぼれしたこと、英会話が学べることに魅力を感じてBEA(商業英語研究会)を選択した。

英会話のレッスンに参加して、会員相互の交流の居場所としての学生会館の中2階の溜まり場にせっせと通い、夏は合宿、サークルの仲間と早慶戦や親睦旅行、早稲田祭参加など、それまでの拘束の厳しい6年間の女子校生活と違い様々な価値観の同居するすばらしさを体験したり、動けば世界がどんどん広まるような喜びを感じてエネルギーに動き回った。それは、受験勉強でそれまで眠っていた私の青春が開花したかのごとくの日々であった。

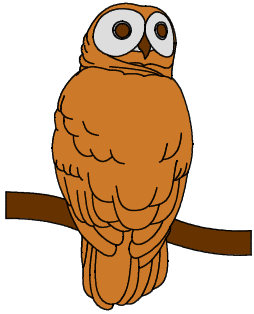
しかし、2年生になり、文学部(現在の法学部校舎)の戸山校舎への移転により、なんとなくサークルは物理的に遠くなり、活動の中心は文学部校舎の心理学教室になっていった。周囲の女子学生は就職には恬淡としていたが、私は、就職にも意欲的に取り組み、国家公務員上級心理職の試験に挑戦してみた。劣等生の私が運良く引っかけ、学校からの2名の合格者に入ることが出来た。しかしBEAで過ごしたことにより三菱商事にも興味があり、挑戦して幸い内定をもらっていた。何を選択すべきか、一人悩み始めていた時、本明先生[現名誉教授]が、「防衛庁の研究所に行ってみたらどうか」と、先輩を紹介してくださったことから結局は、防衛庁航空医学実験隊に心理職として勤務をすることになった。今で言うキャリアとしての研究技官の立場だったので公務員の階級制度に優遇された立場を得、給料をもらって大学院に席を置いてパイロットの心理研究をしているような優雅な日々を過ごすことが出来た、既に結婚していた私は、5年目に長男を身ごもった。やはり女子校で教育を受けていた為かどんなに恵まれた職場でも女性である以上、まず子育てが大切と思い、さっさと退職してしまった。

その後は、身近にできることを模索してPTA活動や東村山市の図書館の嘱託を体験して過ごした。長男の高校入学が決まった時、突然早稲田心理学会の通知が舞い込んだ。子育てもひと段落したので、とにかく早稲田に出かけた。そこで、同級生の山崎勝男教授[現在スポーツ科学学術院院長]との出会いにより、航空医学実験隊での経験が活き、再度心理学にとり組むチャンスを得た。お陰で臨床心理士の資格を獲得することも出来、それを生かして教育分野で活動していく道も開けた。しかしそれも一区切りつき、まだ年齢制限のない東京都スクールカウンセラーとして、都立高校で週1日勤務し、勤務の無い日は、より納得した仕事ができるよう研究会参加や体力維持に駆け回っている現在である。まだまだ進取の精神は、旺盛な私である。

多摩湖ふくろう通信 No 57

2006. 9. 2

戸田 志郎



8 月 15 日、小泉純一郎首相は、靖国神社に参拝した。新聞各紙は、それぞれの立場から論評した。

産経新聞は「靖国神社は戦場に散った人々の御霊を慰め、国のために殉じた人々の霊を祀るとし、首相の靖国参拝は戦没者慰霊のあり方と外交姿勢をきちんと示した」と終戦記念日の参拝を格別、意義深いものであると評価している。

日本経済新聞（論説主幹岡部直明）は、首相の靖国参拝には思慮深さが欠けていると次のように批判する。第一は首相の歴史認識と行動の間にズレがある。首相はあの戦争を「誤った戦争」とみる。東京裁判を認め、A 級戦犯を「戦争犯罪人」と認識する。戦争指導者の戦争責任をあいまいにして、国民の理解も国際社会の信認も得られない。第二は国際感覚にもズレがある。東アジア共同体構想を掲げながら、なぜ靖国参拝であえて中国、韓国を怒らせるのか。第三は経済認識の問題である。日本経済の復活はアジアの発展に依存する。その成長力をどう取り込むかがカギなのに「政冷」は民間主導の東アジア経済圏の胎動に水を差す。

朝日新聞（論説主幹若宮啓文）は、8.15 参拝の強行のおかげで多くの国民が靖国神社や A 級戦犯について考え、ひいては遠くなり行く戦争に再び目を向けたことが、小泉氏の大きな功績だと皮肉っている。そして、もはや追悼施設のあり方という根本問題を避けて、首相参拝の是非だけを考えることはできないと論じている。

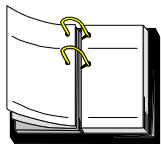
いくつか出ている提案のうち、A 級戦犯の分祀案であるが、靖国神社が応じていない。仮に分祀しても、「遊就館」のようにあの戦争を正当化する思想を神社がもつ限り問題が残り、天皇の参拝も難しい。次に靖国を宗教から切り離し、国立慰霊施設にしてしまう考えもある。改組でどこまで宗教色を除けるのか、かえって国家神道的なものが復活しないか、かつての国家護持法案と同じ矛盾がつきまとう。となれば、新たな国立追悼施設を作るのがよいと結論付けている。

小泉首相靖国参拝問題を考えるとき大切なことは、問題の本質は何かということである。戦没者慰霊のあり方として、なぜ靖国神社ではいけないのか国民の中で明確になっていないことである。

日本政府は、1951 年 9 月に調印されたサンフランシスコ講和条約の第 11 条で、東京裁判の判決を受諾している。この判決で、侵略戦争の責任者として有罪の宣告を受けたかつての国家指導者たちのことを A 級戦犯というが、この A 級戦犯を合祀する靖国神社に国を代表する立場にある首相が参拝するのは好ましくないということは各紙が取りあげている。しかし、靖国神社が「遊就館」を拠点にして日本の侵略戦争を「自存自衛」「アジア解放」の「正しい戦争」だったとゆがめた歴史観・戦争観をひろめていることはあまり知られていない。

中国東北部への侵略から 15 年にわたる戦争は、日本国民 310 万人の犠牲をもたらし、アジア太平洋地域の各国に二千万人以上の犠牲者をだす史上最大の惨害をもたらした。『餓死（うえじに）した英霊たち』（青木書店・2001 年）の著者藤原彰氏の研究によれば、日本の軍人・軍属の戦没者 230 万人のうち、約 6 割が餓死者だったということである。同書によれば、大量餓死は、無謀な作戦計画、補給や兵士の人命の軽視など、日本軍の独特の体質の直接的産物だった。近代初期の戦争では、戦闘による戦死者よりも従軍中の病死者＝戦病死者の方が多いたが、一般的である。それが、補給体制の整備や軍事医学の発達によって、両者の比率が逆転するようになる。日本の場合は、日露戦争が、戦死者数が戦病死者数を上まわった最初の戦争となった。ところが、アジア・太平洋戦争では、餓死という形で戦病死が再び戦死を上まわるようになった。

靖国神社が体現している「大東亜戦争肯定論」は、かつての戦争を自衛戦争として、あるいは、アジア解放のための戦争として、正当化することによって、戦争の侵略性を否定する。同時に、それは無謀な戦争を開始した国家指導者の国民に対する責任を否定する機能を持っているのである。

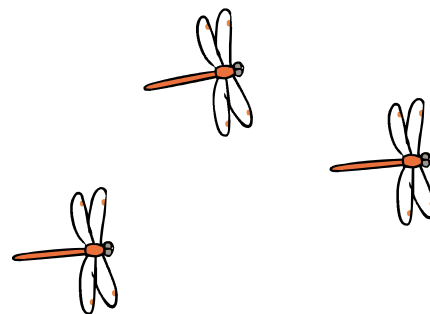


今月の予定

2 日 (土) 9 月 度役員会
雑学講座
お誕生会
カラオケ同好会
4 日 (月) ヨガ同好会
1 6 日 (土) 麻雀同好会
1 7 日 (日) テニス同好会

1 0 月上旬の予定

2 日 (月) ヨガ同好会
7 日 (土) 1 0 月 度役員会
お誕生会
カラオケ同好会
1 4 日 (土) テニス同好会



編集局だより

編集局：小亀、伊藤

○第 8 8 回の夏の甲子園で早実が悲願の全国制覇を成し遂げた。2 6 年前長男が中等部に入学した夏、荒木大輔を擁して甲子園に出場した早実を家族で夜行バスで応援に行ったことを思い出しながら、2 日間妻と一緒にテレビで夢中で応援した。大変な感動を与えてくれた 2 日間であった。優勝したことは勿論嬉しかったが、試合終了後斉藤君の相手の投手を称え、試合に出られなかった部員や支えてくれた多くの人たちに感謝の気持ちを述べたことに胸が熱くなった。

これから、プロの勧誘等も多くなると思うが、文武両道を目指して早実に入學した斉藤君ですから、是非学部に進学して、神宮のマウンドにまたその勇姿を見せてくれることを心から願っています。早実の野球部の皆さん本当に感動をありがとう。

○8 年間使ったパソコンを井垣さんのご協力を得て、新しいものに買い換えました。そのためメールアドレスが変わりましたので、お手数ですがご訂正ください。

t e r u . y o s h i . w 5 5 @ y 5 . d i o n . n e . j p (小亀)

○随分と前のことである。多分小学校の高学年の事だったと思う。当時台東区に住んでいた私は友人と 2 人で上野の科学博物館に出かけた。帰り道、科学博物館の脇で突然警察官に片手で進行を制せられた。私達の止められた舗道の脇には黒塗りの車が止まっていた。暫くすると、一人の老人が（とその時には思えた）警察官の向こうを歩いて車に向かわれた。昭和天皇であった。多分私達との距離は 2 m も離れていなかっただろう。あと思ったときに、天皇は私達 2 人の小学生にあの帽子を軽く持ち上げるスタイルで応えられた。今思えば研究所からのお帰りの時であったのだろう。その後私は昭和天皇と言えはこの時のことを思い出す。どんな時にも国民の前に公人としての姿勢を崩されなかった姿は私には印象的であった。生まれた時から公人であり、公人で有り続けなければならなかった方に、公人と私人を平気で混ぜ合わせる今の政治家の姿はどの様に思われたであろうか。"公"で在りたければ"私"を捨ててこそ"公"であり、"私"で在りたければ"公"を捨てればいいだけだ。"公"にして"公"を捨てることの出来ない天皇家のお姿に改めてお劳しい気持ちと負わせている物の重さを感じざるを得ない。

○次回の原稿の締め切りは 1 次 9 月 2 3 日、2 次 9 月 3 0 日です。 (伊藤)